

横江ゴクラク寺遺跡発掘調査現地説明会資料

令和6年6月15日

野々市市教育委員会生涯学習課

1. 調査の概要

調査地	野々市市郷二丁目地内
調査主体	野々市市教育委員会
調査期間	令和6年4月～6月（予定）
調査面積	約1,500 m ²

2. 調査成果

横江ゴクラク寺遺跡は、白山市横江町から野々市市郷二丁目にかけて広がる遺跡です。

今回の調査では主に中世、特に鎌倉時代の初め頃（12 世紀後半から 13 世紀前葉）のものが見つかりました。

【遺構】

見つけた遺構（地面に残った痕跡）は、^{ほったてばしらたてもの}掘立柱建物や溝、井戸などがあります。

掘立柱建物は、少なくとも 3 棟はあったと考えられます。最も大きい掘立柱建物①は最大で南北 28m、東西 4.5m 程と大型で、一般的な集落にはあまり見られない南北に長い建物である可能性があります。柱穴の大きさや柱の間隔、堆積していた土の様子などを今後更に整理し、柱の組み合わせを検討していく必要があります。

この建物の東にはし字状に曲がる溝①があり、その東側はほぼ遺構がみられない^{くうかんち}空閑地であったと考えられます。

調査区西側の溝②からは、土師器の皿が大量に見つかりました。

井戸は直径 3m 程の楕円形で、埋められる際に石が大量に投げ捨てられていました。中から
 珠洲焼や青磁などが見つかります。

【遺物】

遺物（土器や石器など）では「かわらけ」と呼ばれる土師器の皿が多く、他に珠洲焼の甕やすり鉢、青磁など中国から輸入した磁器なども見つかっています。土師器は大小2種類に分かれ、平べったい皿形と、深みのあるお椀形のものが見られます。特に溝②で見つかったものは残りの状態が良いものが多いことから、儀礼的に遺棄された可能性が考えられます。

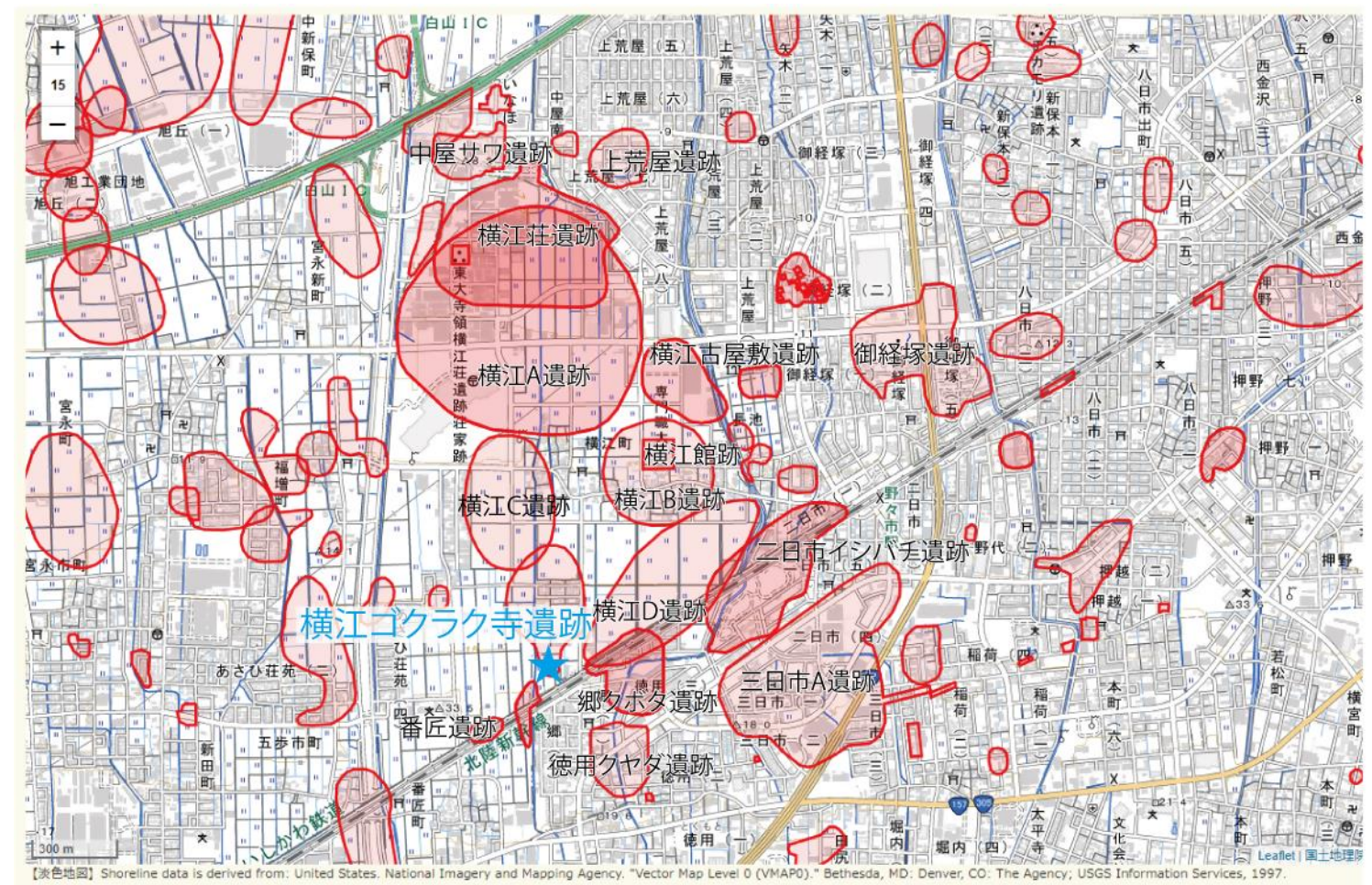
石製品では^{といし}砥石などが少量見つかっています。

遺物の大多数が土師器と珠洲焼で、同時期にこの地域で流通する加賀焼や越前焼が見つからないことがこの遺跡の特徴の1つです。また遺物の時期は12世紀後半～13世紀前葉が中心で、その他の時代の遺物が見つからないことから、本遺跡は短期間存続した遺跡であったと考えられます。

3. まとめ

本遺跡は大型の建物と空閑地を計画的に配置した、一般的な集落とやや異なる構成であると考えられます。一体どのような性格を持っているのか、検討する必要があります。

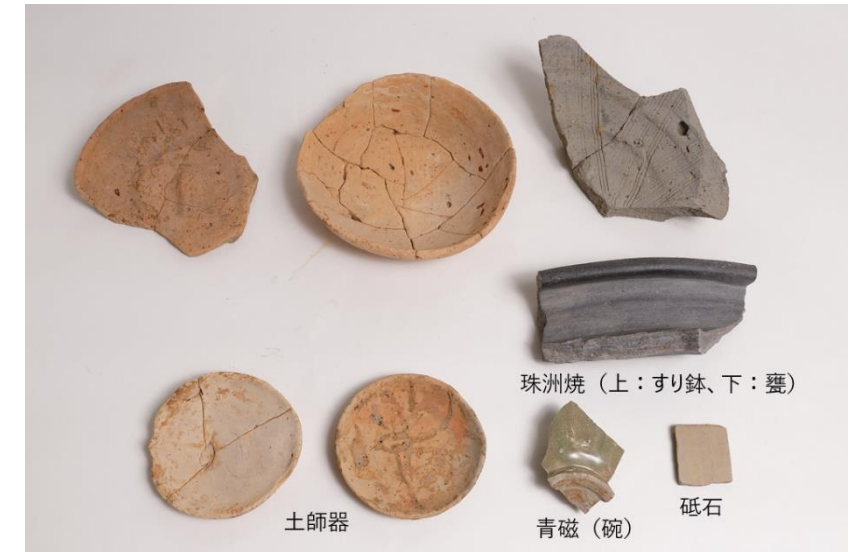
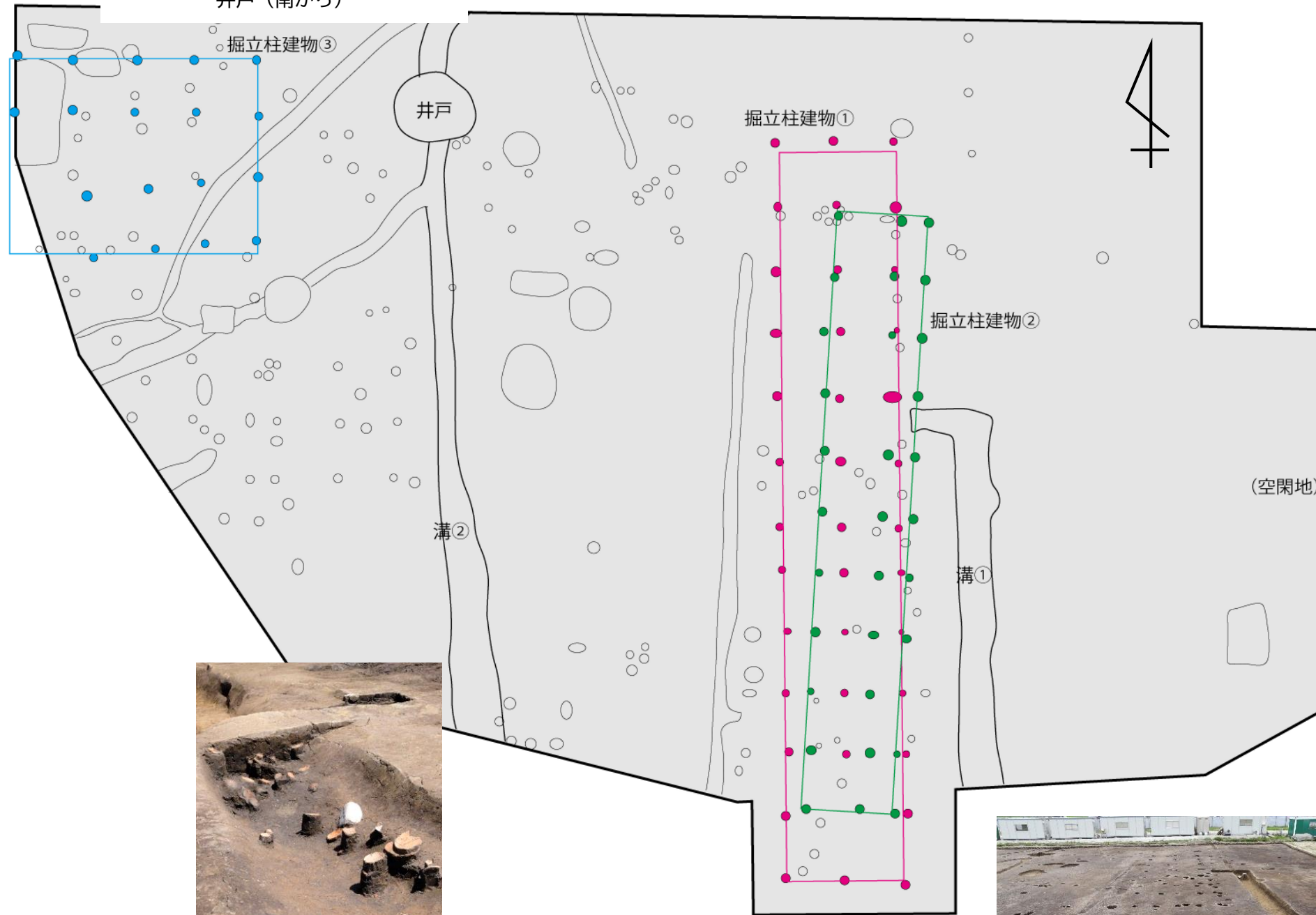
本遺跡の周辺は、平安時代に東大寺の荘園であった横江荘遺跡や、鎌倉時代から室町時代の建物や道路の跡が確認できた横江 D 遺跡・郷クボタ遺跡・三日市 A 遺跡、中世の武士団林氏の一族である横江氏が住んだ伝承が残る横江館跡などの遺跡が所在しています。今後は出土品の整理を進め、これらの遺跡との関係を踏まえた地域の歴史を紐解く鍵となることが期待されます。



周辺の遺跡（「いしかわ文化財ナビ」を基に作成）



井戸 (南から)



主な出土遺物



L字状に曲がる溝① (北東から)



土師器が出土した溝② (南西から)



掘立柱建物の柱穴 (南から)

調査区平面略図 (縮尺約 200 分の 1)

柱の組み合わせは調査中の案

